



丙午四月日記

早稲田大学図書館
文書27
A 120



明治三十九年丙午四月日誌要略

四月一日 日曜

皇太子殿下吳軍流生駒軍艦遊寓二千若
來九日進水式舉行為 自今日行啓也
車遊

吳流竹子不倍少駒進水式亦遊觀也
狹中密着深招待也中亦

彦謀木村剛等出系今夕均吳舟用也
長(下)未我未物面等竹子進水
式お親但一本自必出此の改言侍也

伊國親王觀國也上業游水田所難官也者

旨

旨泉德平浪速艦吳港より西に泊中
長官山内寅吉次より先年東海軍擴張に
より熱心な歳下今回生駒進水式に連
名成り是非覚観せしむ司令官より勸告且
此司令官官舎を以て迎賓館と法定次中電
報より友邦親善の旨を返信せしむ
貴族院より鉄道局平井次郎に優待券を
贈るに右官線一般無代價より自由便乘
當三月廿一日より來甲午年正月廿五日

東橋原製

如切符一枚接手通信法之済平井と也
三日好晴

神代天皇大祭の庭前梅花宴并

大磯の梅子多熱症相り由通信

午前寺の上野精養軒にて貴族院議長一

日徳川公爵議長と招待立食を供す

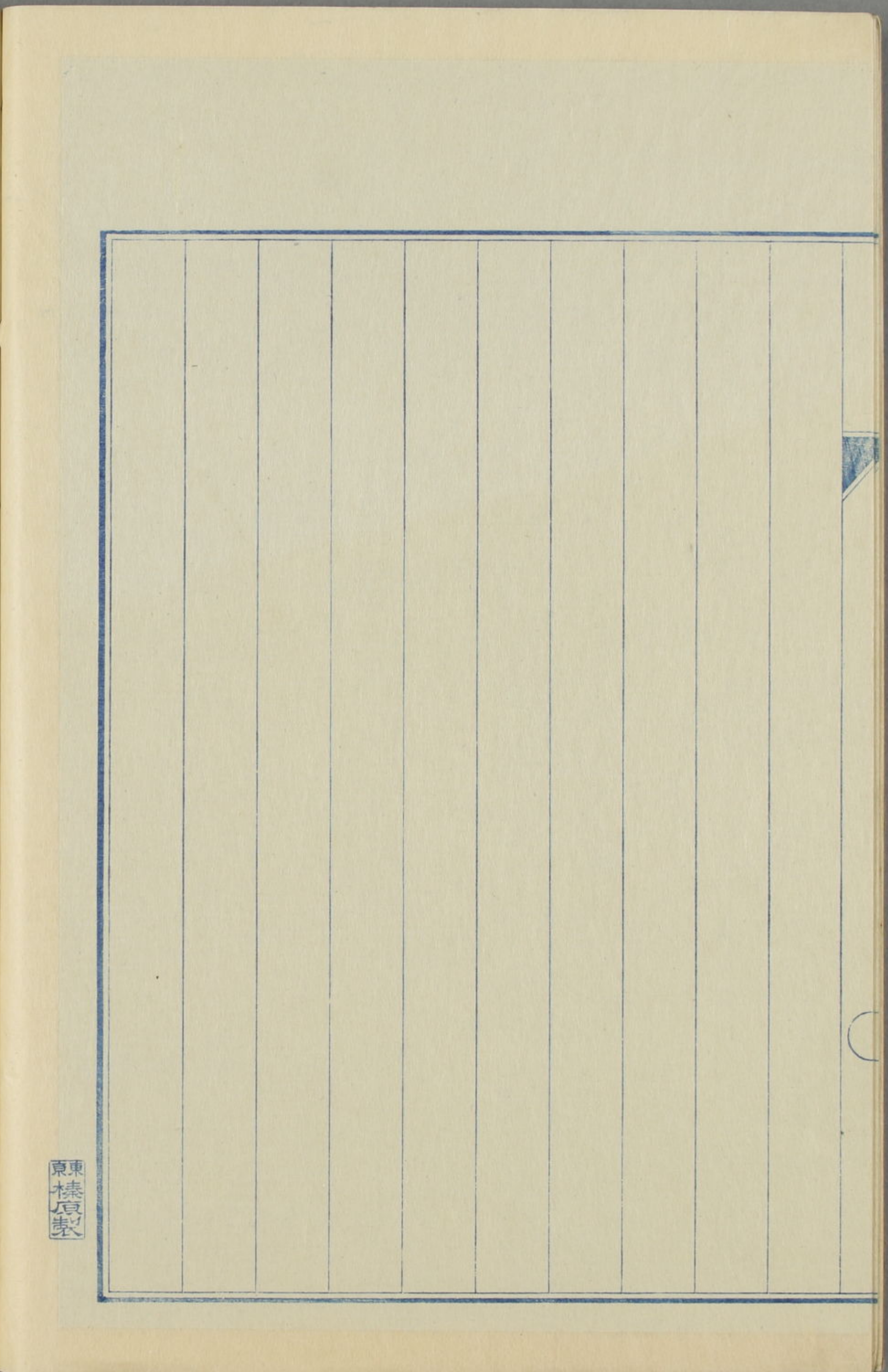
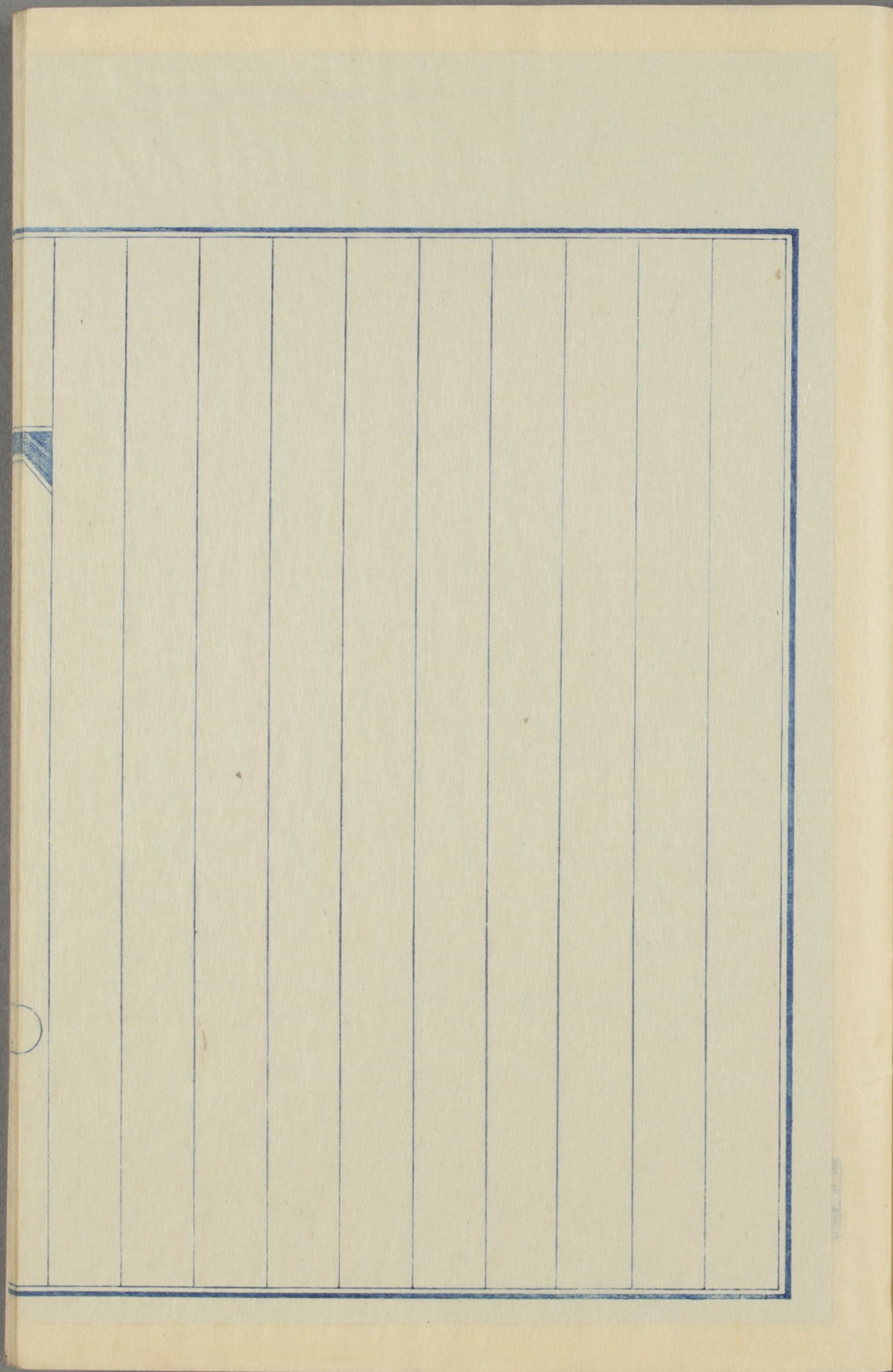
且清山梅花宴并通信に足頃を食す畢り山

上柳廻梅花を

其井邸之齋露園公使館付より明日出發

新築高野二条場に見る新築女子供為人

のひも井に不立勢家を見て替所話お六代七
見ま来自ら、辞去山中に足舞菜一流行目と
初み世り七振ありあは阿流、吳行を暫く
伊東祐磨日跡を傍に留る香西唐子香伊東
祐磨より元帥を命と賜す
西園寺省相を賜す
晩乃長政の如飲、吳行を漢す
貞亮熱心也



東橋屋製

以下
32丁
白紙

東
洋
製

青井云

特山伯ハク晚發ハク招ハク

滿洲鉄道ハク川村伯ハク松尾ハク定ハク拾ハク五ハク萬ハク

買収ハク

大連ハク寬城子ハク四百ハク六十ハク斗ハク品川ハク大

安奉鉄道ハク假設ハク百ハク十ハク斗ハク金ハク山ハク七ハク萬ハク斗ハク

一ハク隨ハク送ハク列ハク之ハク改ハク造ハク七ハク萬ハク斗ハク

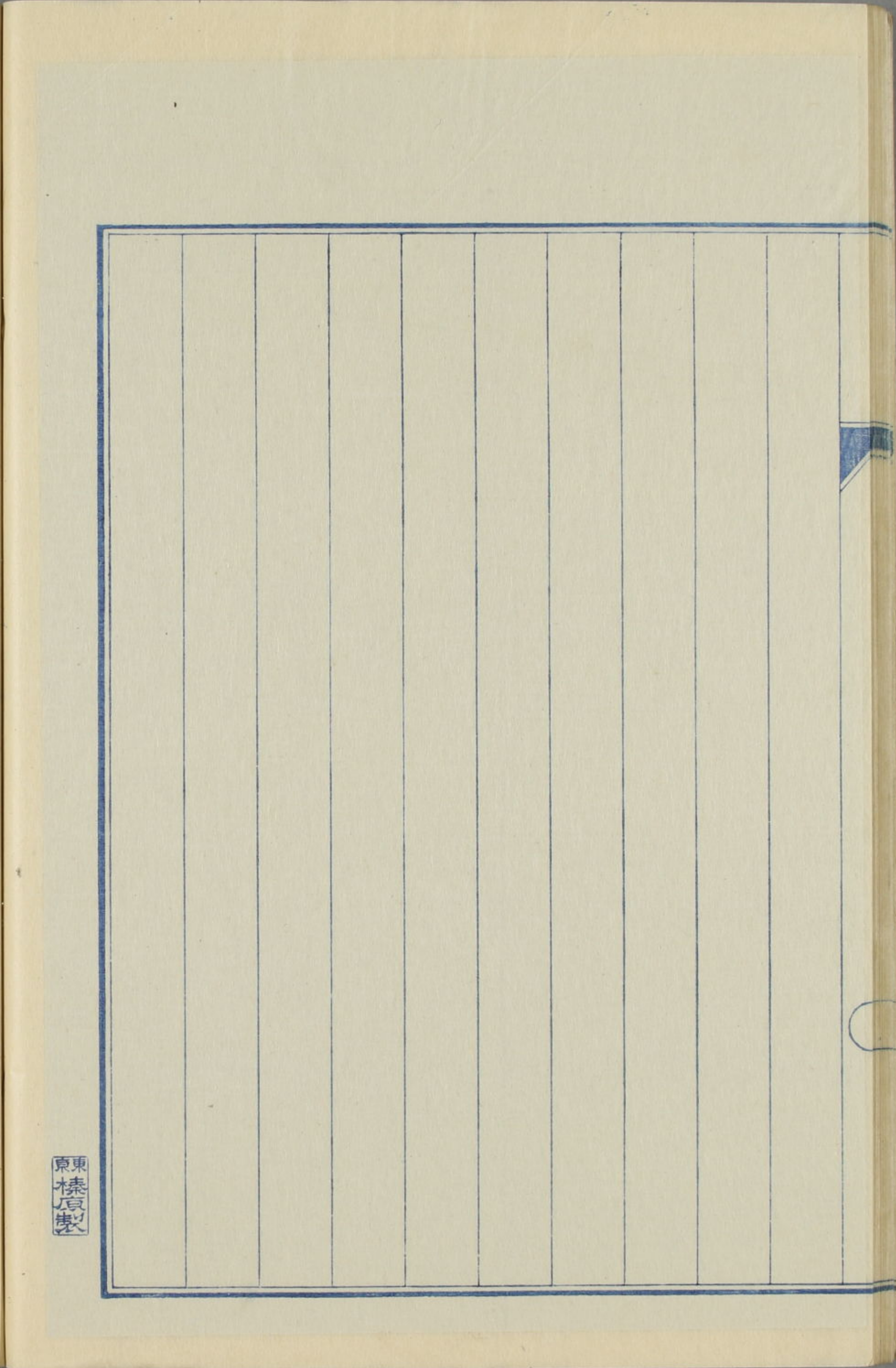
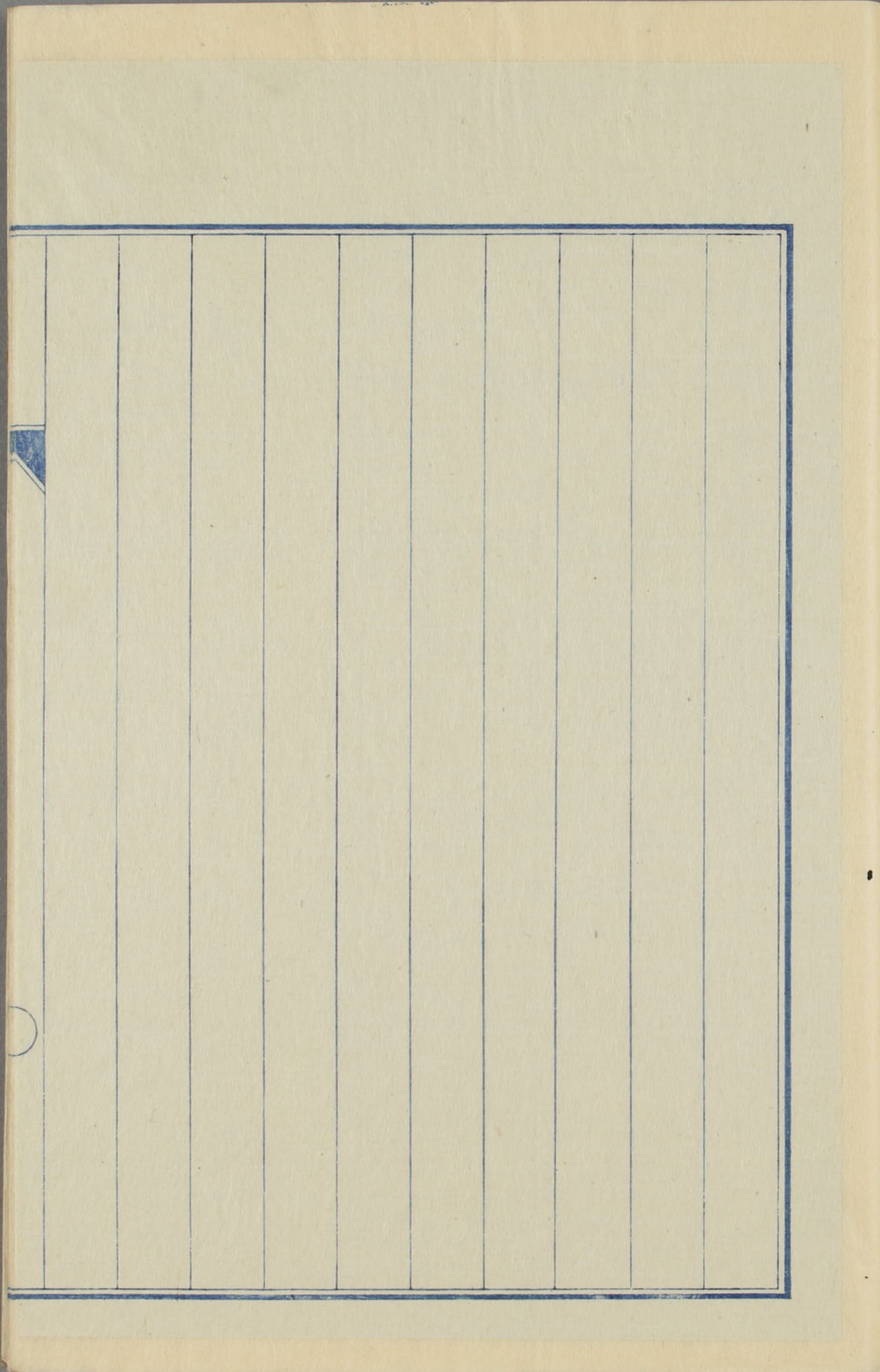
經費ハク

在防鉄道ハク担ハク保ハク資ハク力ハク貳ハク億ハク圓ハク斗ハク

十三年大坂藤田組艦之西に於て祝筵川河
 死を以て涕騰大山形祝筵監典を奉り終
 り三月廿九日勉め此中より歸り梓山に職
 事川河洋行隨員佐和節田木を用いて祝
 祝改革に任中し或は憲兵創設或は東京府
 村田と火災消防を修め先づポンプ二基を米國
 より買入れ之を二ヶ所配置し消防に始り
 且つ川河の海防に足輕之を屬せし國田大
 浦、渡邊、権、経、佐、少、省、中、佐、終、主、佐、也、ん
 或は副官監典場を修め舟、田、邊、群、英、ホ

東橋原製

之排作一の突、亂麻、ハ、カ、



東洋原製

て 全 紙
下 白
以

